うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail:lets@some.jp

平成27年7月

うるわしの桜井をつくる会 27年度総会

本会の27年度総会は6月13日(土)午後1時より、市立図書館大ホールにて開催しました。ここで過去の総会をふり返ってみました。

	年月日	場所
設立総会	平成22年3月14日	まほろばセンター
第2回総会	平成23年6月12日	まほろばセンター
第3回総会	平成24年6月24日	市立図書館
第4回総会	平成25年6月23日	纒向小学校
第5回総会	平成26年6月14日	あるぼーる

今回は第６回となります。今回の出席者は31名でした。会員の高齢化が進み、出席者が減ったことが将来への懸念材料です。

堀井良殷会長

堀井会長は「この会は、様々なお立場や考えの方々が、魅力ある桜井をつくろうという、ただその一点において志を同じくして結集し、活動して参りました。出発から6年、会員は157名になっております。この会は、必ずしも大きな事業を、お金を集めてやろうという団体ではありません。むしろ自分で出来ることを、みんながそれぞれに取り組み、それをみんなが応援し、つないでいくことによって結果として社会に貢献してゆくことを目指しています。みなさまのご尽力によって、歴史や伝統、文化、教育、福祉、観光、まちづくり、環境、行政と市民の協働など各分野において、うるわしの桜井をつくる会があればこその成果を挙げることが出来たと思います。一つ一つは小さな取り組みでもやがてそれが大きく社会を変えてゆく事につながることは歴史が証明しています。今年もみなさまのご活躍を期待したいと思います。」と力強く挨拶されました。その後、平成26年度事業及び決算報告と平成27年度事業計画及び予算案は満場一致で可決されました。

総会後の講演会は桜井市理事の林功氏による「まちづくりに関する包括協定」で、こちらはホットなテーマなのか市関係者が多数来場されました。その内容は次ページ以下に譲ります。

浅川 肇

まちづくりに関する包括協定in桜井市

林理事

総会後は、桜井市理事の林功氏による「まちづくりに関する包括協定in桜井市」公開講演会が開催され約100名の参加者で賑わいました。県と包括協定を結んだ桜井市の5地区の説明があり、その後、各地区に分かれて様々な意見が出されましたので、ご紹介します。(敬称略)

①中和幹線粟殿近隣周辺地区　　うるわしの桜井をつくる会　植村幸子

粟殿地区は、市役所、市民会館、中央公民館が立ち並ぶ行政・文化の中心地として、桜井市民にとって重要な拠点であると考えています。この地区に新たに加わる「医療・福祉・防災の拠点施設」には多くの市民が期待を寄せています。但し、市民待望の新施設の設置については、次のような問題点が指摘されます。

1）住民の高齢化に伴いアクセスの面で不安がある。特に遠隔地住民のためのコミュニティバスの充実が必要ではないか。

2.）新たな拠点の設置や運用に住民の声はどのように反映されるのか？進行中の計画の概要や情報は市民に十分伝わっているのか？といった問題解消にタウンミーティングの開催や広報紙の活用などが求められます。

３）「中和幹線周辺地区」の開発に当たっては、桜井らしい景観の保護に十分な配慮をお願いしたい。

「まちづくりに関する包括協定」により基本構想を策定される5つの地区がそれぞれまちづくりに取り組むことになりますが、桜井市として5つの地区のまちづくりを包括的に見通す視点が必要だと思われます。

桜井市を「ハイカーが歩いて楽しむ街」にするのか？「車で訪問しやすい街」にするのか？「食べ物が美味しい街」にするのか？　大局的な視点から桜井市をどんな街にしようとしているのかを明確にすることが大切だと思われます。「桜井市が最終的に目指す街」を目標にそれぞれの地区がまちづくりに取り組めば、桜井市全体の発展につながるのではないでしょうか。

（例）桜井駅周辺→新拠点内の観光案内所→大神神社から山の辺の道へ→纒向地区（纒向遺跡・箸墓古墳・三輪そうめん・相撲神社）→出雲地区へ野見宿禰の山越え→長谷寺と門前町→長谷寺周辺・多武峯地区・オーベルジュでの宿泊→談山神社→明日香方面へと具体的なルート設定をして「一泊して歩くのが面白い街・桜井」を国内外の観光客へPRする

（例）初瀬門前町の旅館施設を敢えて旧式のまま残し、外国人観光客を誘致する

（例）快適な休憩所やトイレ施設を木材の町らしいデザインで要所に設置する

（例）駅前商店街を「町なかの道の駅」と位置づけて農産物や土産物のショッピングゾーンとして活用する

などといった総合的なまちづくりを進めるためには、市内全域のまちづくりを主導する機関の積極的な関与が必要になると思われます。

②近鉄大福駅周辺地区　　**桜井福祉のまちづくり委員会　松塚信夫**

林功理事のお話を受けて、話し合いを行う、出席者は6名。
昭和40年に建設された県営住宅は、老朽化し建てかえの時期に来ており、県による建てかえが既に決定している。それにともなって、地域住民によるまちづくりに向けた取り組み(まちづくり協議会の立ち上げ等)が急務となっている。

まず、林理事から県の構想をお聞きし、具体像がおぼろげながらわかってきた。それによると、景観等も考えながら4～5階建ての県営住宅を考えられており、モデル地区として、高齢者福祉(バリアフリー等)、子育て、周辺地域の交流などを考えたまちづくり(施設の建設等)を推進するとのこと。

1.地域交流の確保(検討地域から利便施設等)

2.魅力溢れる歩道空間の演出

3.地域の高齢者が安心して暮らせる機能の整備等のまちづくり構想が考えられている。

つまり、県営住宅の利用者だけでなく、周辺地域の住民も利用できる施設の建設やコミュニティバスの運行等を考えておられるとのことであった。

近鉄大福駅周辺地区は、これから発展していく地域であり、商業地域や県営住宅を含む住宅の建設が活発化し、若者世代が多く流入する地域となる。「大福」という地名の通り「幸せ」を呼ぶ地域として、住んで良かったと言われるまちづくりを目指して行きたい。そのためにも、早急に「まちづくり協議会」を立ち上げ、すでに取り組みが行われている他地域の「まちづくり協議会」に学びながら取り組みを進めて行きたい。

③長谷寺門前町周辺地区　　**NPO法人泊瀬門前町再興フォーラム　寺井修司**

長谷寺門前町周辺地区のまちづくりにおいて、道路整備が緊急の課題であると思われる。
現在、特に朝夕を中心に産業用道路としての役割を果たしているのが現状であり、地域住民特に高齢者及び学童の安全な道路を確保できるようになれば良いと思われる。

更に観光客に対しても安全でゆっくりと参道を歩いていただくのが一番であり、その為にも「白河バイパス」の早期完成が必要不可欠であると考えています。

初瀬景観町づくりの会をさらに発展させて、地域住民・自治会・行政・各寺社・各種団体の協働のもと来訪者(外国人)の増加による観光施設の整備等を進めるとともに、町家再生による移住者増加に努力したい。

桜井市長に提言書として提出した、初瀬地区の景観まちづくりのビジョン・アクションプログラムにそって中長期的にわたり、各事業を進めて行きたい。

意見交換会での声

コーディネーター　うるわしの桜井をつくる会　岡本健

中和幹線粟殿周辺地域
医療・福祉施設は市役所周辺では駅から遠いので、駅前のエルト2階公的施設に設置することにより、連携して活用できるようにするとよい。

大神神社参道周辺地区
基本計画は出来ている。実現にむけて心を合わせていきたい。子ども・孫のためにどうあればいいか、将来への想いを共有していくことが大事。

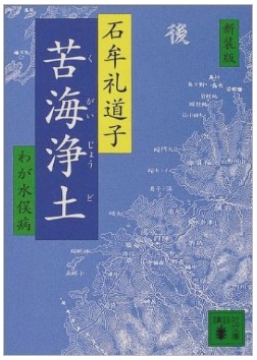
近鉄大福駅周辺地区
県営住宅を中心に開発モデル地区になりえると知った。まちづくり協議会をつくり、住民みんなで住みよいまちづくりを進めたい。

桜井駅周辺地区
住みよい街にするには、店舗を増やすことが大事。どう増やしていくかがポイント。具体的に空き店舗・空き町家バンクなど試行していきたい。

長谷寺門前町周辺地区
白河バイパスが実現すると車の流れ、人の流れが大きく変わる。観光客の受け入れ増につながり、期待は大きい。長谷寺を中心に外国人観光客も誘致したい。

お知らせ

●図書館友の会
7月の読書会は、『苦海浄土』石牟礼道子著を読みます。
古代から続く豊かな漁村に悪夢のような水俣病が発生。近代科学によって破壊されていく心豊かな小村、リズミカルな天草の方言が幻想的に良き過去と辛い現在を紡ぎ出す名作。
日　時　7月28日(火)午後1時30分から
場　所　まほろばセンター市民活動交流拠点
問い合わせ先　淺川 肇　TEL：090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



後記　包括協定は仲々人気があり、関心度は一様に高いようです。要は市民が良い目をみるように願います。それから市民の中には在留の外国人を含めて考えて下さい。今日のように国際交流が声高く呼ばれる時代にあって在日のアジア人に対する日本人の態度はまだまだ高圧的・侮辱的です。人種差別撤廃条約が国連で採択されて50年。半世紀が過ぎました。日本は遅れること30年、1995年に批准しました。それでも20年経っています。内容を充実させなければ……と思います。　（あさ）

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142－5－203
淺川 肇
TEL090－1961－6345